

熊本の草原維持に向けて

—目指そう！阿蘇世界文化遺産—

東京大学フィールドスタディ型
政策協働プログラム提案書

熊本県阿蘇地域
(阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、
高森町、西原村、南阿蘇村)

熊本県阿蘇地域の紹介

▼構成自治体

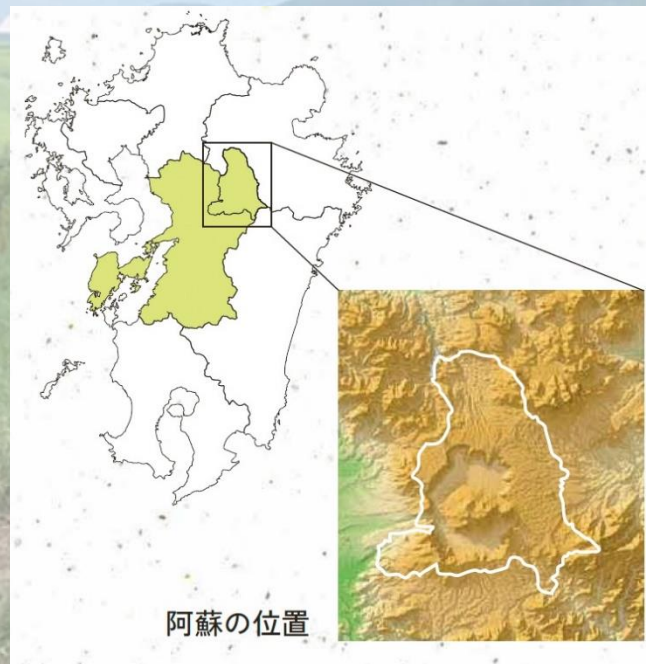
阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村、南阿蘇村

▼人口

58,703人（R2国勢調査・7市町村の合計）

▼阿蘇地域の特徴

九州のほぼ中心部に位置し、南北約25km、東西約18kmの大きさを誇るカルデラを有しています。阿蘇の壮大な景観は、日本の伝統的な土地利用である「草地－森林－居住地－農地」が、カルデラ全域に広がることにより形成されています。「野焼き・放牧・採草」の草地管理システムに基づいた人々の営みにより、千年以上にわたって半自然草地が維持され続けてきました。



▼阿蘇の位置図



▼あか牛が有名です

阿蘇地域の課題①



▼畜産業の衰退や地域の人口減少、高齢化が進行中、将来にわたって野焼き等を担う後継者が不足し、野焼き面積の減少が加速。

▼県の取組み

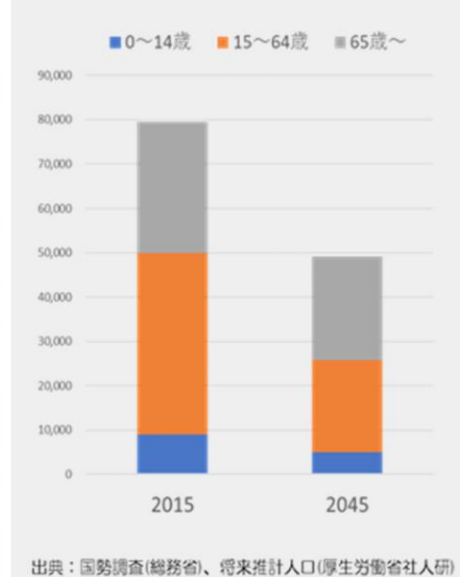
後継者育成研修、野焼き休止中の牧野への野焼き再開支援、ICT活用の促進、財源・人材を確保するためのサポーター認証事業など、様々な取組みを実施中。



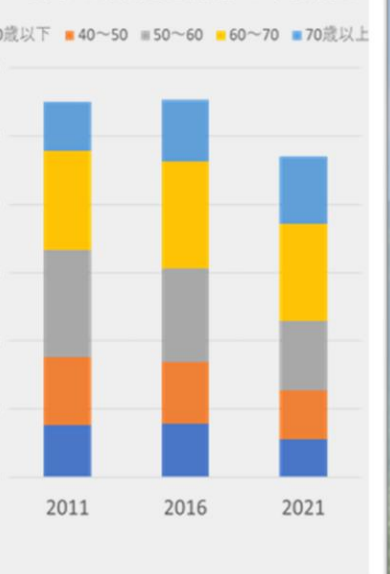
しかし…

- ・草原維持の担い手不足や草原面積の減少は進んでいる
- ・減少し続けると、30年後、約6割の草原が減少し、観光資源である景観が損なわれるとともに阿蘇の草原が有する多面的機能（水源涵養機能や炭素固定機能、生物多様性など）が失われる恐れ

将来の阿蘇地域関係8市町村の人口予測

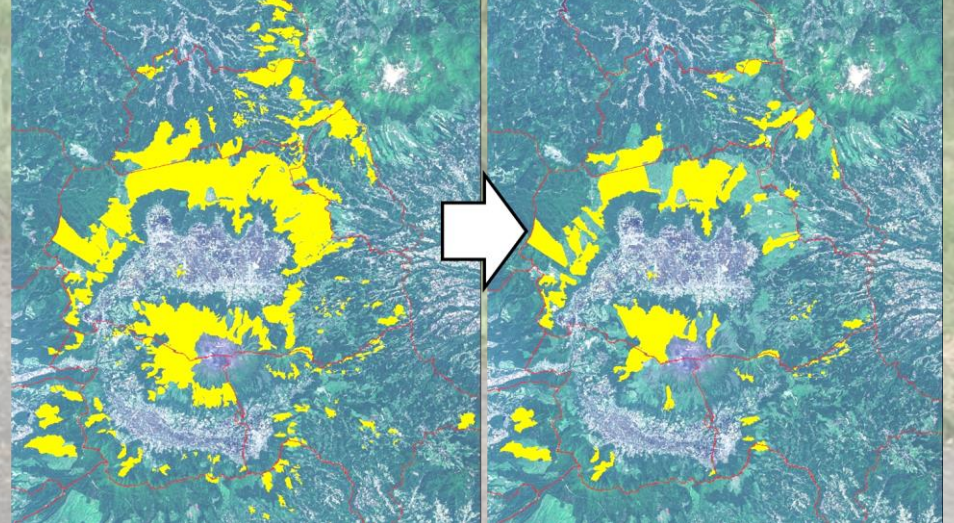


地元の野焼き出役者の年齢構成



出典：国勢調査(総務省)、将来推計人口(厚生労働省社人研)

出典：阿蘇草原再生協議会「阿蘇草原再生全体構想<第3期>」
元データ：熊本県による「阿蘇草原維持再生基礎調査(2016年調査)」



30年後の草原面積イメージ（面積比約6割減）
（調査時点：2016年）

阿蘇地域の課題②

▼世界文化遺産登録に向けた取組みの認知度不足

阿蘇の美しい景観を守り、未来へ引き継ぐため、平成19年から世界文化遺産登録に向けた取組みを進めているが、地元地域、県内外において十分な認知度とは言えない状況



県政記者・全国記者向け現地ツアー



東京でのシンポジウム

プログラムで提案いただきたいこと

▼課題解決に必要と考えていること

阿蘇の草原は、その面積は100年前の半分以下にまで縮小し、今もなお減少し続けています。阿蘇の景観が損なわれることのないよう、草原を維持していくためには、野焼きや畜産業従事者のみならず、多くの関係者との連携や支援が不可欠です。

▼学生の皆様に考えていただきたいこと

阿蘇の草原維持及び世界文化遺産登録に係る課題については、地域振興、農学、環境学、経済学、経営学など他分野にわたる「総合知」での対応が求められています。そのため、多角的・学際的視野での検討を行っていただきたいです。

▼提案いただきたいこと

- ①野焼きの担い手確保や畜産業の振興策、草原維持の関係人口増加に繋がる策など、草原維持のための具体的な方策
- ②「阿蘇」の世界文化遺産としての価値を発信するための効果的な情報発信手段、応援団形成のための具体的な方策

プログラムのスケジュール（予定）

5月下旬～7月

- ・活動計画打合せ
(オンライン)
- ・事前調査

8月～9月

- ・東京シンポジウム
への参加（仮）
- ・現地活動①
(現地視察、地元
市町村職員や牧野
組合員等との意見
交換)

10月～11月

- ・現地活動②
(現地視察、地元
市町村職員や牧野
組合員等との意見
交換)

12月～1月

- ・事後調査
- ・提案まとめ

2月～3月

- ・現地報告会
- ・機会があれば
野焼きの見学

※上記スケジュールを予定しておりますが、参加学生の皆様と調整しながら進めていきます。

皆様のご参加をお待ちしております！